

中国地方
キラリ企業

小松電機産業（松江市）は工場や店舗の出入り口などで使うシートシャッターと、上下水道をスマートフォンで遠隔監視するクラウド型水管理システムの2本柱で事業を展開する。いずれも国内でいち早く開発に乗り出し、市場を切り開いてきた製品だ。メンテナンスのしやすさなどきめ細かい工夫も強みで、高い競争力を持つ。

小松昭夫社長は農機メーカー、佐藤造機（現三菱マヒンドラ農機）で設計開発などを担当していた。工場の出入り口での事故をきっかけにシートシャッターのアイデアを思いついた。他社に持ち込んで開発依頼もしたがうまくいかずに「結局自

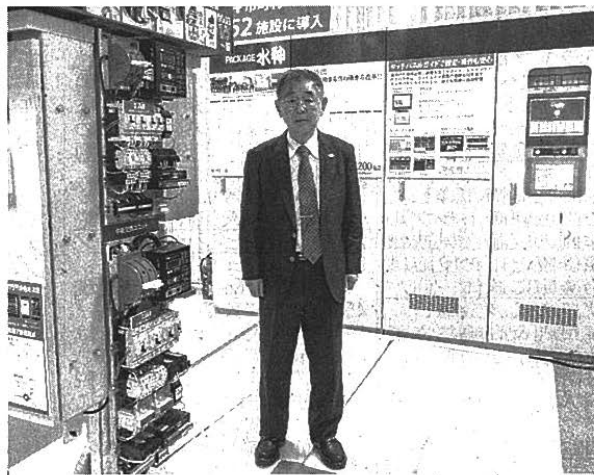
二刀流経営で競争力磨く

中国

分で作ってしまった」。これが1973年に創業するきっかけだ。

シートシャッターは工場などで、空調効率の向上や、ホコリや虫の侵入防止などの目的で設置する。人が近づくと自動で開閉する。

小松電機産業の「門番」シリーズは自立して設置できるタイプや、爆発や火災の危険性があるエリアで空気で駆動するタイプ



クラウド型水管理システム「やくも水神」は全国500自治体で導入（小松社長）

小松電機産業

（松江市）

シートシャッターと水管理

したほか、NTTドコモと提携して顔認証の入室管理システムも展開している。

同社のもう一つの柱であるクラウド型水管理システム「やくも水神」は、スマホやパソコンで水質や水量などを監視できる。緊急時には遠隔操作で排水ポンプや水門ゲートの操作も可能だ。クラウドという概念が一般的ではなかった2000年に開発した。

自治体の上下水道の管理システムは有線を使うなど現場に行かないと状態確認や操作ができないものがまだ多い。各地で更新期を迎え、少人数で管理できる利便性などを武器に売り込む。全国の500を超える自治体が「やくも水神」を導入する。

クラウドを通じて操作するポンプ制御装置は、一般的な製品と比べて部品数を5分の1程度、容積は4分の1程度にした。小型化で水没レベルを40センチ上げることができ、大雨などの洪水被害を受けにくくした。バッテリーを増設すれば停電時でも最長7日間稼働できる。故障時はモジュールのユニットだけ交換すればよく、復旧も簡単だ。製品のアイデアや施工のしやすさは「農機設計で培ったノウハウが生きている」（小松社長）。

「門番」と「やくも水神」の売上高比率は6対4程度。後者の売り上げが伸びてきており、「二刀流」経営にさらに磨きがかかっている。

（田中伸樹）

会社概要

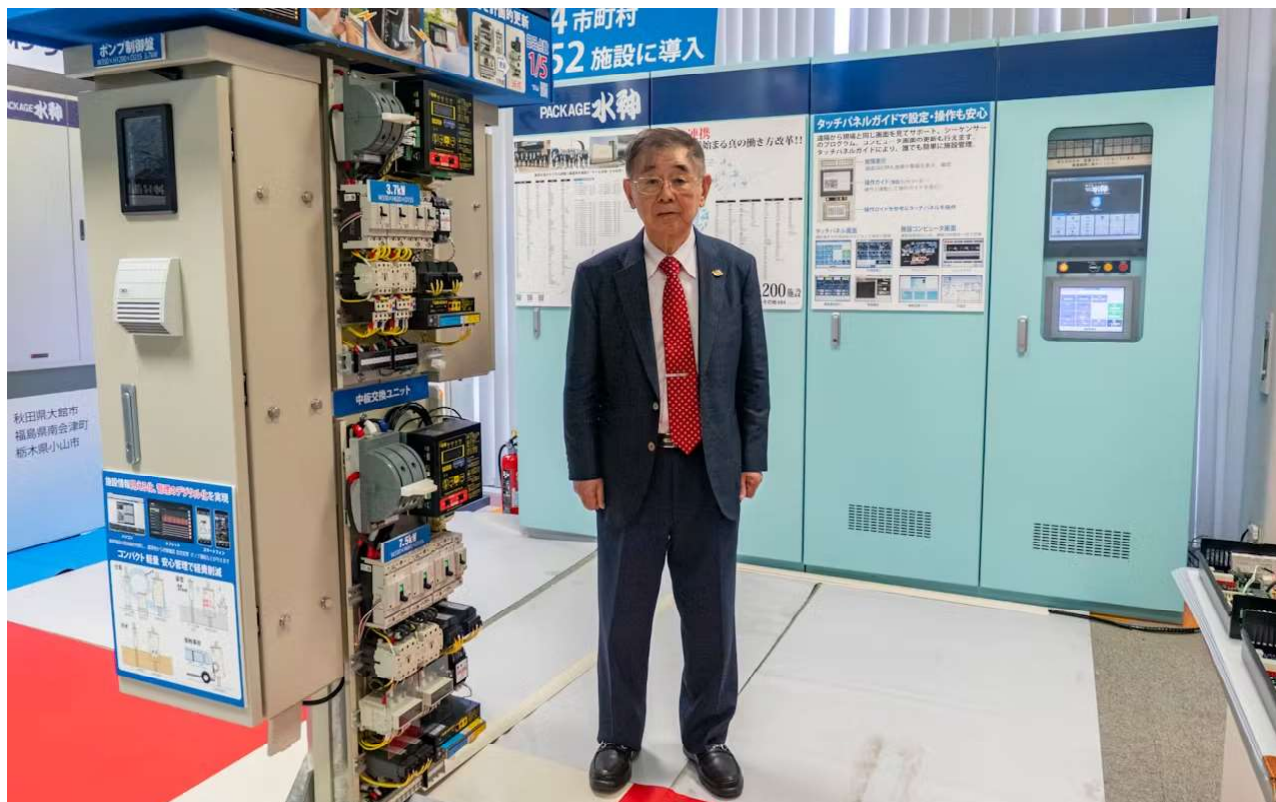
所在地	島根県松江市
創立	1973年
売上高	48億円（2025年3月期見込み）
従業員数	70人
事業内容	シートシャッターと上下水道監視システム販売

配達・購読のお問い合わせ
0120-211494
7時～21時

鳥岡 山0882-2244-1115
取0857-2251-2015
2251-2467

島根の小松電機産業、シャッター・クラウド水管理で成長 中国地方キラリ企業

2025/4/3 5:00 | 日本経済新聞 電子版



クラウド型水管理システム「やくも水神」は全国500自治体で導入（写真は小松社長）

小松電機産業（松江市）は工場や店舗の出入り口などで使うシートシャッターと、上下水道をスマートフォンで遠隔監視するクラウド型水管理システムの2本柱で事業を展開する。いずれも国内でいち早く開発に乗り出し、市場を切り開いてきた製品だ。メンテナンスのしやすさなどきめ細かい工夫も強みで、高い競争力を持つ。

小松昭夫社長は農機メーカー、佐藤造機（現三菱マヒンドラ農機）で設計開発などを担当していた。工場の出入り口での事故をきっかけにシートシャッターのアイデアを思いついた。他社に持ち込んで開発依頼もしたがうまくいかずに「結局自分で作ってしまった」。これが1973年に創業するきっかけだ。

シートシャッターは工場などで、空調効率の向上や、ホコリや虫の侵入防止などの目的で設置する。人が近づくと自動で開閉する。

小松電機産業の「門番」シリーズは自立して設置できるタイプや、爆発や火災の危険性があるエリアで空気で駆動するタイプ、虫の侵入を防ぎやすいシートなど幅広い。

シャッターの据え付け作業のしやすさにも配慮する。フレーム部分を共通化して部品点数を削減。切ったりつなげたりしてサイズを調整できるようにし、現場で短時間で施工できるよう工夫をこらす。

シャッター自体の機能強化も進める。遠隔監視できるクラウド型を導入したほか、NTTドコモと提携して顔認証の入室管理システムも展開している。

会社概要	
所在地	島根県松江市
創 立	1973年
売上高	48億円（2025年3月期見込み）
従業員数	70人
事業内容	シートシャッターと上下水道監視システム販売

同社のもう一つの柱であるクラウド型水管理システム「やくも水神」は、スマホやパソコンで水質や水量などを監視できる。緊急時には遠隔操作で排水ポンプや水門ゲートの操作も可能だ。クラウドという概念が一般的ではなかった2000年に開発した。

自治体の上下水道の管理システムは有線を使うなど現場に行かないと状態確認や操作ができないものも多い。各地で更新期を迎え、少人数で管理できる利便性などを武器に売り込む。全国の500を超える自治体が「やくも水神」を導入する。

クラウドを通じて操作するポンプ制御装置は、一般的な製品と比べて部品数を5分の1程度、容積は4分の1程度にした。小型化で水没レベルを40センチ上げることができ、大雨などの洪水被害を受けにくくした。バッテリーを増設すれば停電時でも最長7日間稼働できる。故障時はモジュールのユニットだけ交換すればよく、復旧も簡単だ。

製品のアイデアや施工のしやすさは「農機設計で培ったノウハウが生きている」（小松社長）。「門番」と「やくも水神」の売上高比率は6対4程度。後者の売りが伸びてきており、「二刀流」経営にさらに磨きがかかっている。

（田中伸樹）

【関連記事】

- ・ [島根の山海、マイクロ波で乾燥食品 錦糸卵シェア9割](#)